KODO CULTURAL FOUNDATION

鼓童文化財団の人材育成

研修生　想いを寄せて　～2016年12月～

「太鼓芸能集団 鼓童」メンバー養成コース研修生の2年生9名、1年生10名。
全寮制の研修所での共同生活、そして稽古の日々を通して、悩み、迷い、支えられながら、夢に向かって打ち込んでいます。
来年1月、2年生は研修を修了し、準メンバーへの選考の時を迎えます。また、1年生は進級選考が待っています。
今、何を想うのか。未来へ向かう19名の想いをぜひご覧ください。

くらし

昔の学校の木造校舎を生活と稽古の場とする研修所での共同生活は、人と人とのつながりの中で生きていく力をつける大切な学びの要素です。掃除は起床後、手分けして廊下や床の雑巾がけをします。約20名の食事は当番で作ります。できるだけ加工品を使わないよう心がけ、旬の食材を使います。山菜採りや魚の捌き方を習う時間もあります。

茶道・能楽・講義など

茶道（裏千家）では、1年目に盆略点前、2年目からは選択制で薄茶点前（炉）まで学びます。日頃お世話になっている皆さんを研修所にお招きする「収穫祭」で、最終発表の茶席を催します。能楽（宝生流）では年ごとに演目を一つ選び、謡と仕舞を学びます。地元の能楽愛好家の皆さんと共に能舞台に上がる経験もします。

佐渡の歴史や自然に関する講義や、戸外に出て俳句の吟行なども行います。

太鼓・踊り・唄・笛の稽古

鼓童メンバーや外部からの講師を招いて、様々な稽古が行われます。また、研修生自身で考え、自主的に稽古する時間もあります。

太鼓は、基本的な打法を段階を追って学びます。鼓童の演目から「屋台囃子」「三宅」「大太鼓」「千里馬」「モノクローム」など、様々なスタイルの太鼓を稽古します。

踊りでは「鬼太鼓」「剣舞」「津軽手踊り」や、琉球舞踊の「群星」などを学びます。

唄の稽古では、発声・音程・リズムなどの基本から、各地の民謡、アイヌの唄など様々な歌に触れます。また、作曲や合唱も行います。

笛は、主に篠笛を用いて音の出し方から始め、主に鼓童の舞台で演奏されている曲目を学びます。また、選択制で箏や胡弓、三味線などにも取り組みます。

ものづくり

入所後すぐに、食事時に使う竹の箸を手作りします。その後、角材にカンナをかけてバチを作ります。陶芸やわらぞうり作りなども行います。

農作業

田んぼや畑ではなるべく無農薬・有機栽培、手作業で行います。収穫は研修生の食事の一部をまかなってくれます。また、鼓童の会会員の方などに送る柿は、地元の方から教わりながら摘蕾や収穫、発送などを行います。

祭りへの参加

研修所にほど近い岩首（9月）・柿野浦（4月）の集落の祭りに受け入れていただき、生活の祈りから生まれた芸能を肌で感じていきます。また、島内各地の祭りを見学し、様々な芸能に触れる機会もあります。

実地研修

佐渡島内で行われる鼓童公演やイベントで舞台設営や警備、受付などのスタッフワークを学びます。「鼓童塾」などの合宿ワークショップでは料理を始めとする、参加者の宿泊の受入なども。また、島内の中学校を訪れて行う「交流公演」では演奏や話で一つの公演を組み立てたり、「鼓童佐渡宿根木公演」ではスタッフの傍ら鼓童メンバーとともに出演し、一般のお客様の前で演奏し、実践的に学びます。

研修所のカリキュラム

くらす まなぶ つくる

様々な稽古や農作業やものづくり、そして共同生活。自分たちの心身を耕していきます。

研修所の1日 ～夏時間～

5:00	
6:00	起床・体操・掃除・トレーニング
7:00	朝食
8:00	ストレッチ・締上げ・朝稽古
9:00	
10:00	**全体稽古**
11:00	
12:00	各自稽古
13:00	昼食・休憩
14:00	
15:00	**全体稽古**
16:00	
17:00	各自稽古
18:00	
19:00	夕食
20:00	各自稽古・入浴・ミーティング等
21:00	
22:00	就寝

※ 冬時間は5:30起床、22:30 就寝

二年生

〈34期〉

「太鼓芸能集団 鼓童」メンバー養成コース2年生

「追い求め続ける人」

三枝（さえぐさ） 晴太（せいた）
20歳 神奈川県大和市 出身

自分の理想を追い続ける人。それは、眼の奥の光が、力が、全然違っていて、周りに放つオーラで、同じ空間にいるだけで力が湧いてくる。そんな人。

高校一年生の冬に、僕は研修所で、そんな眼に出会いました。僕が研修所に入ったのは、それがきっかけです。理想の音を、型を持っているんだな、それを叶えようとしているんだなっていう人。そんな人になりたくて。

朝から晩まで、目標に向かって走り続けることのできる研修所。あの時、見た眼から受けた衝撃的な輝きを、僕も、必ず、舞台の上で。

「自分の味」

米谷（よねたに） 友宏（ともひろ）
24歳 静岡県藤枝市 出身

研修所に来てから料理が得意になった。自分の料理を食べてくれる人が二十人もいて、全員が正直に感想を言ってくれるからだろう。ここに来るまでは、こんなに料理が好きになるとは思っていなかった。ここで取り組むことには、得意の中にも苦手があるし、得意でも、一番になれないこともある。それでも太鼓や笛や唄が好きと言えるのは、僕のいい所を分かってくれる仲間がいたから。自分と向き合う時間の増える研修所だから気付けたことだと思う。煮込んでみたり、香辛料を入れることで、工夫して自分にしか出せない味で勝負したい。もっと上を目指すためにも。

「見えてくるもの」

薬師神（やくしじん）　正三（しょうぞう）
21歳　愛媛県宇和島市　出身

研修所へ入所してから一番印象に残っているのは、「本気でやってみろ、そうしたら見えてくる物がある」という言葉。それを意識し始めたのは今年の一月の半ば頃だ。自分は本気でやっているつもりだったが、それは所詮”つもり“だったと知った。それから「本気って何だ？」ともがきながら生活して見えてきたのは弱い自分と強い自分だった。稽古が嫌だ、どうせ無理だと弱音を吐く自分。真っ直ぐに、自分に嘘をつきたくないと強く生きようとする自分。

研修所で生活していく中で見えた自分と一緒に、ひたすらに真っ直ぐに、本気でぶつかって生きて、打っていきたい。

「こころね」

山脇（やまわき）　千栄（ちえ）
23歳　香川県三豊市　出身

太鼓。それは心の中を映す楽器なのかもしれない。焦ると、皆のテンポと離れるし、自信がないと音は薄い。怒りを隠しても、音はギシギシ、鋭く痛い。太鼓はエネルギーの反映だ。もしこれが正解ならば、誰かに自分の心の音を届ける日は遠く無いという事。

それならば、いい太鼓を求めるよりも先に、いい心を持つ人間であろうじゃないか。いい心。定義は人それぞれだけど、きっとそれは清く、豊か。そんな心が持てたなら、そんな太鼓が打てるはず。

いい心を音にして届けていく。その音が、誰かの心を豊かにできたなら、私は本当に幸せ者です。

「自信を持つ」

渡辺（わたなべ）　ちひろ
20歳　東京都稲城市　出身

”自分を信じる“なんて余っ程の自信家じゃなきゃ無理とつい最近まで思っていた。私は何をやってもゆらゆら揺れて、太鼓の音も頼りなく、自信が持てないでいた。どうしたら、強くて芯があって説得力のある音が出せるのだろう、と沢山悩んだ。

結果見えたのは”挑戦“の二文字だった。私は、同期が皆、自信を持っているように思えて、周りと比べて焦るばかりで、ここに来た目的、挑戦するという当たり前のことを忘れてしまっていた。こうして文章を考えている間にも同期は苦手を克服するためにもの凄く努力をしている。今は素直にそれを受け取ることができる。だから頑張れる。頑張る。頑張りたい。よし、大丈夫！みんな、ありがとう。

「音を鳴らす、うたをうたう」

平田（ひらた）　裕貴（ゆうき）
22歳　鹿児島県枕崎市　出身

音楽。いつでも僕の中にあって、僕の生きるための炎そのもの。特に曲を作るのは大好き。二年生になってから、僕はこれでもか！というくらい沢山曲を作っている。イメージが形になっていくのが楽しくて、「いっせーの」で皆で音を鳴らす瞬間が好きで、たまらない。

音を作る。「小さい秋見つけた」とか「雪やこんこ」とか、誰が作ったか知らなくても、誰でも歌えて、沢山の人々の中で生き続けている。そんな音楽を作りたい。僕が作った曲を聴いた人が、なつかしい思い出や情景を想い起こすような音を作れたら…。沢山の人たちの心の中で生き続ける、太鼓・笛の音を鳴らしたい。

「自分」

山本（やまもと） 大地（だいち）

21歳　大阪府高槻市　出身

朝、拍子木が鳴る。皆が起きる。山も海も空も、研修所にいる虫達も皆、動き始める。トレーニング。坂道を下り、集落の人と出逢い、挨拶する。海岸線を走る。波の音。鳥の声。朝食は皆がほっとする笑顔のひと時。この笑顔でその日の稽古、農作業、頑張れる。時に、皆からダメ出しを受けて、できない自分にイライラする。追い込めずに逃げてしまう自分の弱さ。でもそこに仲間がいたから、なにくそ、と頑張れた。たまに家族に電話する。すごくほっとする。明日もやっぱり頑張ろうって思う。

研修所はとてもいい所です。自分の強さも弱さも全てが分かる。明日はどんな自分に出逢うのでしょう。

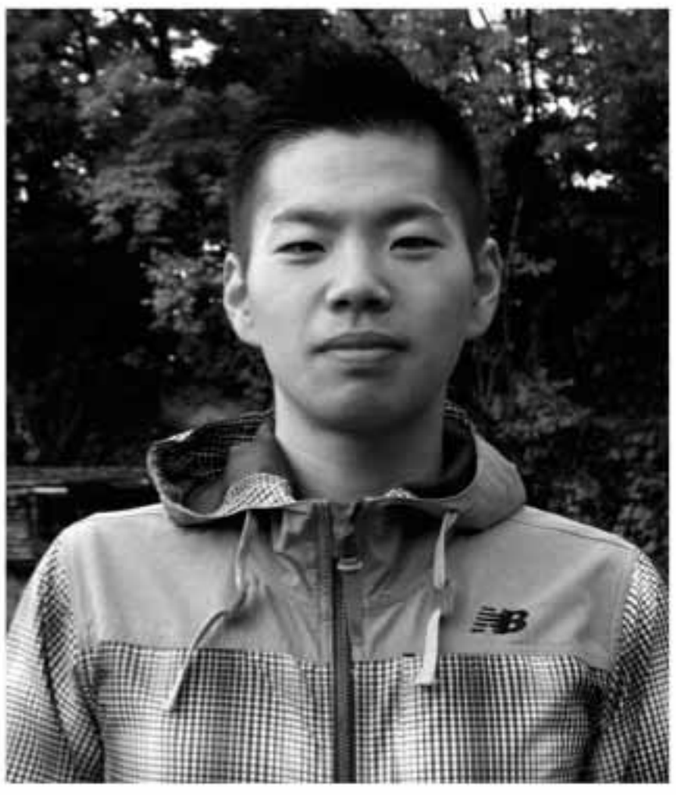
「自分の為に」

木村（きむら） 佑太（ゆうた）

21歳　埼玉県川越市　出身

僕は研修所に来る前は「応援してくれる人達の為にプロになる」と言っていた。一年頑張ったらメンバーになれるとも思っていた。しかしそんな甘い考えは、生まれつきの病気が見つかって一年間治療に専念した為に破られた。その上、復帰してから順調に行くかと思った矢先、事故で手の指を怪我して、また長期離脱せざるを得なかった。

もう太鼓も打てないかもしれない、おしまいだと絶望感を味わい、もう辞めてしまおうと思いながらも、悔しくて辞められなかった。太鼓でなくても何が何でも夢の舞台に立ってみたい。その自分を想像したら、そこからの景色を絶対見たくて、あきらめる訳にはいかなかった。格好つけた自分はもういない。今は自分の為に、自分の夢に向かっている。



「大切なこと」

藤田（ふじた） 隆太（りゅうた）

22歳　福岡県直方市　出身

研修所というのは、自分の弱い所を見つけられる場所だと思う。ここに来て、どういう人になりたいのかすごく悩んだ。自分の中のものがそのまま出せる自分になりたい。それには物事に全力で向き合い、出来る事をすべてやりつくすことだと思った。一年八ヶ月、生活を共にしてきた同期との食卓は温かい。日々に全力で向き合ってきて、お互いに腹を割って話せるからこんなに温かく感じるのだと思う。

あと二ヶ月もないけれど、食卓を囲み、雨の中を走ったり、大自然と向き合うことそれ自体…出来事すべてを楽しんで、全力疾走で最後まで走り切ろう。

二〇一六年 講師の先生方

（五〇音順・敬称略）

青柳洋子　［能］宝生流教授嘱託
赤塚五行　［俳句］新潟日報佐渡版 俳句選者
朝倉俊樹　［能］重要無形文化財保持者 シテ方 宝生流能楽師
石川義純　［津軽手踊り］宗家石川流師範
伊藤多喜雄　［唄］民謡歌手
岩崎ちひろ　［魚のさばき方］魚屋
岡田京子　［歌］作曲家
金子竜太郎　［太鼓など］和太鼓奏者
金城光枝　［琉球舞踊］琉球舞踊家・太圭流華の会師範
葛原正己　［陶芸］
工藤龍生　［心と体の使い方］演技指導者 演出家
野上結美　［ヴォイストレーニング］声楽家
野村和仁　［水口囃子］水口ばやし 水口囃舎 代表
松田祐樹　［講義］佐渡の芸能研究者
桃井宗生　［茶道］裏千家学校茶道教授
柿野浦、岩首地区ならびに佐渡の皆様

鼓童メンバー講師

小島千絵子、齊藤栄一、藤本容子、藤本吉利、見留知弘、蓑輪真弥、山口幹文、石原泰彦、大井キヨ子、後藤美奈子、菅野敦司、千田倫子、本間康子

一年生

〈35期〉

小野田 太陽（おのだ たいよう）

23歳　アメリカ・カリフォルニア州 出身

着ぶくれと
言い訳してた
腹まわり
太陽

最近のお腹まわりの違和感は、寒くなって着込んでいるからか、少し食べ過ぎか？何せ佐渡で取れる魚はアメリカのとは別格で、お米もおいしくて…。思えば研修所へ来るまでは色々言い訳して嫌な事に背を向けていた。しかし、此処ではそれでは前へ進めない。高みを目指すべく、言い訳をやめてどんどん稽古していこう！ご飯も茶碗二杯までにしておこう！

内田 みのり（うちだ みのり）

20歳　長野県長野市 出身

風に乗り
空に飛び出せ
山もみじ
みのり

研修所に来てから、今まで気にしていなかった周りの景色を見るようになりました。山の紅葉や真っ赤に燃える朝日を見ると

「今日も頑張るぞ！」

と思えます。風に乗って空に舞う木の葉のように、自由に自分を表現できる演奏者になりたいです。そして、柿野浦で全身で季節を感じながら過ごしていきたいです。

石井 萌々子（いしい ももこ）

19歳　新潟県新潟市 出身

窓は額
映る秋山
絵のごとし
もも

研修所は自然に囲まれているため、四季がはっきりと見えます。夏が終わり、青々としていた木々が、赤や黄色に変わる様子が室内からでも分かり、まるで窓が額のように見えます。私は特に食堂からの景色が好きです。季節はいよいよ冬を迎えます。厳しい寒さになると思いますが、悔いの残らないよう、一日一日を大切に生活していきたいです。

シルウァナ インペラトリ

25歳　ノルウェー 出身

人を呼ぶ
祭提灯
鬼を打つ
シルウァナ

九月に岩首の祭りに参加させていただいた。鬼太鼓を習い、準備を手伝い、当日は法被を着せてもらって、一日中、人と話し、笑って、鬼を打った。夜になって提灯の灯りが点いて集落のお寺の前に皆さんが集まった。提灯の光の下の鬼と、笛、太鼓。このような祭りの無い国から来た私は、その雰囲気に酔いしれ、とても感動的だった。

儀間 思音（ぎま もね）

19歳　沖縄県島尻郡 出身

ランニング
朝のあいさつ
秋の村
もね

いつものように海岸線のランニングから柿野浦に戻ってきました。ふと山を見上げると、柿野浦の集落の雰囲気と、秋の紅葉の色合いが一体となっていることに気がつきました。

坂牧 颯人（さかまき はやと）

19歳　新潟県長岡市 出身

しんしんと
降る初雪が
人つなぐ
まき

今年の初雪はバスで見た。「初雪か」「今年は早ええの～」「もう冬ですね」、見知らぬ人としたこれだけの会話。豪雪地帯で育った僕が、まさか初雪で感動するとは思わなかった。娯楽の少ない研修所では、自然の変化を感じたり、人との会話が楽しみになる。どんどん寒くなるけれど、その中の楽しさを見つけて頑張っていこう。

詫間 俊（たくま しゅん）

19歳　香川県三豊市 出身

春の日に
夢を追い掛け
〈今ここに
たくま

僕の夢はもちろん舞台メンバーになること。メンバーになってやりたいことがいっぱいある。その夢の一つは地元の公演で自分が作曲した曲を演奏することだ。そんな自分を想像すると、キツい日でも頑張ろう！という気持ちになれる。夢は見るよりも叶える方が楽しいので、一つ一つ叶えていって、また新しい夢を追い掛けたい。

阿部 空（あべ そら）

19歳　東京都大田区 出身

干し柿は
故郷の味
母の味
そら

いつも七十点の自分に満足している中途半端な自分が嫌だった。本気で打ち込めるものが欲しいと高校の頃に出会ったのが和太鼓だ。今、鼓童の研修生として打ち込める自分に嘘はつきたくない。全てが平均点の自分はやめて、真っ直ぐ一本、軸のある人になる。一年生としての研修生活は残り二ヶ月。干し柿の作業をしながら母を想った。

大塩 悠（おおしお ゆう）

19歳　東京都八王子市 出身

稽古終え
銀杏の金が
目にしみる
しお

研修所では「できること」が次々と「出来るつもりでいたこと」になっていく。成長ではなく、自分がダメになっているように感じる時さえある。気づけば、僕に出来ることなんて全然なかった。やっとスタートラインに立った心持ちだ。スタートラインだと思っている今すら、しばらくして、それに満たないと気づくかもしれないが。

石黒 康平（いしぐろ こうへい）

19歳　東京都狛江市 出身

秋の空
目指す夢まで
一直線
こうへい

海から少しずつのぼる朝日、色が変わっていく山、テトラポッドに波が当たる音。研修所に来てから、東京では聞かない音、景色、シャットダウンしていたものも、ここでは自然に自分の中に入ってきて、何故ここに居るのかいつも再認識させられます。初心を忘れずに、鼓童のメンバーまで駆け抜けます。

鼓童文化財団研修所

ご支援のお願い

太鼓芸能集団「鼓童」の舞台を花にたとえれば、研修所はベースとなる土を耕し、根を育む活動にあたります。鼓童は財団を設立して以来、研修所を公益的な活動と位置づけて運営してまいりました。演奏の技術はもとより、その人間性すべてが舞台上にそのまま表れるとの考えから「くらす・まなぶ・つくる」を柱に、まず何よりも生き方を磨くことに重きを置いております。

1996年に旧岩首中学校の校舎跡をお借りして開所した「柿野浦研修所」は、おかげさまで昨年20周年を迎えました。そのような中、築60年を越えて老朽化した建物は補修の必要があり、また研修所の運営にも年間約3,000万円の費用がかかります。

ぜひ研修生の育成に参画していただけませんか。皆様のご理解とご協力をいただければ幸いです。なお、お寄せいただいた支援金は、公益財団法人への寄付金として、所得税（お住まいの自治体によっては住民税も）の優遇措置の対象となります。

研修生育成支援

1 研修所設備補修、研修生育成支援

2015年、耐用年数を越えた浴室の設備を改修すべく立ち上げた「お風呂改修プロジェクト」。おかげさまで総額100万円を越えるご支援をいただき、2016年8月改修工事着工、9月には新たなお風呂が完成いたしました。皆様からの温かいご支援、誠にありがとうございました。

ただ、工事の過程で予定外の漏水が発見され、大掛かりな配管工事が必要になったりと、研修所そのものの老朽化に対しては引き続き対策が必要です。

「お風呂場改修プロジェクト」としては工事の完了をもって一旦の区切りといたしますが、建物を今後も維持・活用し、豊かな自然に囲まれた環境の中で研修生を育成していくため、皆様より引き続きのご支援をいただけますよう心よりお願い申し上げます。

ご送金先

［郵便振替］
加入者名：公益財団法人鼓童文化財団
口座番号：00690−9−25829
「研修生育成支援」と明記の上ご送金ください。

［銀行振込］
口座名義：財）鼓童文化財団（ザイ。コドウブンカザイダン）
第四銀行 南佐渡支店 普通 1143861
三菱東京UFJ銀行 新潟支店 普通 142468
お名前の前に「KEN」とお書き添えの上お振込ください。

鼓童ウェブサイト よりクレジットカード（またはPayPal）でもご決済いただけます。

2 鼓童×きしゃぽん「どんどこ古本募金プロジェクト」

どんどこ 古本募金 プロジェクト
KODO × きしゃぽん

鼓童文化財団は「古本募金きしゃぽん」の協働パートナーです。「きしゃぽん」は、ご自宅に眠っている本・DVDなどをリサイクル換金し、指定の団体（協働パートナー）に寄付する仕組みです。

当プロジェクトを通じていただくご寄付は、研修生の支援に使わせていただきます。

［お問い合わせ］ **古本募金きしゃぽん**
フリーダイヤル 0120-29-7000
Tel. 04-2931-3000
URL: http://kishapon.com/kodo/

3 物による支援（インカインド）

2016年度もお米、着物、資料、ストーブなど様々な物をご提供いただきました。このようなご支援をいただける方は、ぜひ鼓童文化財団までご連絡をいただけますようお願いいたします。

編集後記

研修所が柿野浦に移って20年、今日も木造の校舎に太鼓の音が響きます。

研修所の2年間を経て、確かに変わるのはその顔つき。それは、もがきながらも夢を追い続けたことの、紛れもない証。研修所は、修了しても舞台メンバーとして選ばれる保証はなく、また何の資格が得られるわけでもない。ただ、この2年の月日で確かに得たその表情の変化を、自らの誇りとし、またこれからの人生の礎としていくことができるよう、私たちも信念を持ちたい。

自然と人とのつながりの中で、日々太鼓に、そして自分にとことん向かい合える研修所。これからもずっと、ここに太鼓が響き続けるよう…。

研修所所長 / 石原 泰彦

1985年から形を変えながら続いてきた鼓童の研修制度。各代研修生の修了間際の思いは、32年間ずっと機関誌に綴られてきた。今回の2年生の作文に出てくる、「研修所は自分の弱い部分を知る場所」という言葉。逃げ場なく自分以外の19人と過ごしてきた彼らの二年間の感情の機微は、一年制で人数も少なかった時代の私からは計り知ることができない。

「他人がいるから自分がいられた」と言えるあなた達を、「これから先どんな場所でもやっていけるよ」と背中を押して送り出してあげたい。その未来に向けての手伝いが私にできているだろうか、と毎年自問するこの季節である。

研修所事務局 / 千田 倫子

お悔やみ

研修所の講師として長年にわたりご指導いただいておりました、福嶋徹夫先生が11月11日にお亡くなりになりました。元新潟県栽培漁業センター所長として、牡蠣の養殖場の見学などさせていただき、人と自然の関わりや環境保護について研修生に伝えていただきました。福嶋先生に書いていただいた「吾以外皆我師」の言葉を、これからも大切にしていきたいと思います。ご冥福をお祈り申し上げます。

2016年12月10日発行 **公益財団法人鼓童文化財団**
〒952-0611 新潟県佐渡市小木金田新田 148-1 Tel. 0259-81-4100 Fax. 0259-86-3631 Email: zaidan@kodo.or.jp URL: http://www.kodo.or.jp
写真：岡本隆史、Yuta Kato、鼓童 デザイン：中村美沙希